

# 甲府市の歌

作詩 輿石保之  
作曲 甲府市の歌審査委員会

1

さわやかに 山なみあけて  
日にはえる 甲府盆地よ  
朝 朝に 富士をあおげば  
胸はもえ カみなぎる  
甲府市は 希望よぶ町  
希望よぶまち

2

武田菱 かがやく歴史  
しのびつつ はげむあけくれ  
町 町に 光あふれて  
咲きかおる 文化ゆたかに  
甲府市は 夢をよぶ町  
夢をよぶまち

3

虹わたる ぶどうの丘に  
ほのぼのと かすむ湯けむり  
窓 窓に えがお あかるく  
もりあがる 県都われらの  
甲府市は あすをよぶ町  
あすをよぶまち

# 武田節

昭和 36 年  
作詩 米山愛紫  
作曲 明本京静

一

甲斐の山々 陽に映えて  
われ出陣に うれいなし  
おのおの馬は 飼いたるや  
妻子(つまこ)につつが あらざるや  
あらざるや

二

祖霊(それい)まします この山河  
敵にふませて なるものか  
人は石垣 人は城  
情けは味方 仇(あだ)は敵  
仇は敵

## 《詩吟》

疾如風(ときことかぜのごとく)  
徐如林(しずかなることはやしのごとく)  
侵掠如火(しんりやくすることひのごとく)  
不動如山(うごかざることやまのごとし)

三

つつじヶ崎の 月さやか  
うたげを尽くせ 明日よりは  
おのおの京を めざしつつ  
雲と興(おこ)れや 武田武士  
武田武士